



タイトル：年1回、BCPの内容を点検

ポイント

- 意識の定着を図るため、研修、避難訓練などを実施
- 年1回、BCPの内容を点検するほか、研修や訓練の活動状況等を踏まえ内容を精査し、修正が必要であれば是正案を作成、内容を見直し

BCP策定のきっかけ

- 同組合は、「げんきで」「自分らしく」「生き生きと」した生活をご利用者に送って頂くための介護サービスを目指している。
- 東日本大震災では多くの介護施設が被災。介護施設は、基本的に心身にハンディのある人たちが利用する場所であり、そこでもし大災害が起これば、逃げ遅れた人などに深刻な被害が出ることを痛感。この大震災をきっかけに防災意識が高まった。
- 宮崎県では南海トラフ地震が懸念されるどころ、代表者自らBCPの研究を始め、組合が災害等の不測の事態に備えて何をすべきかを知るため、BCP策定をテーマとした中小企業大学校人吉校のセミナーや宮崎県中小企業団体中央会の研修を受講した。

BCP策定時の課題と解決方法

- BCP策定には多くの知識が必要で、ハードルが高いことを痛感。そこで、宮崎県中小企業団体中央会に相談したところ、BCPに精通した専門家の指導を受けられる補助事業の活用を提案された。
- BCPに精通した専門家を招聘して全8回の研究会を開催。策定にあたっては、代表理事を責任者とした少人数のチームで「BCPプロジェクト」を推進。少人数がゆえに和やかな雰囲気の中で自由闊達な議論を重ねることができた。
- 組合の業務や経営資源、想定被害等を洗い出した上で対応策を検討するため、各研究会では、「基本方針」、「重要事業の特定及び重要事業の業務分類」、「事前対策」、「各事業の影響度及びリスク評価」、「災害発生時の対応フロー及び初動対応」、「事前対策及び手順書の作成」、「初動対応・BCP発動対応の各種手順書及び計画書の作成」等について、専門家のコーディネートのもと議論を重ねた。最終的には約40ページにわたるBCPを策定できた。

策定した内容

- 南海トラフ地震等による被災時、利用者と職員の安全を第一とした計画を策定。中核事業は入所（有料老人ホーム）、通所（デイサービスセンター）、訪問介護とし、各業務中断の影響度評価と目標復旧時間などを設定。
- 策定したBCPの浸透・定着のため、研修のほか、避難・消防・救急救命・緊急連絡・安否確認・システム復旧などの訓練を実施。
- BCP運用チェックリストに従い、年1回点検。また、研修や訓練の活動状況等も踏まえながら、BCPの内容を精査し、不具合があれば是正案を作成。案に基づき予算計画を含めたBCP計画を見直し。

BCP策定後の効果

- BCPの策定を経て、従業員の防災意識が向上し、台風や大雨被害など災害時の行動に変化が見られるようになった。例えば、施設近くの地域が水没した際、従業員同士が自発的に話し合い、助け合うなどの行動が見られるようになった。
- 今後、宮崎県では南海トラフ地震による甚大な被害が懸念されているが、BCPを策定したことで、被害を想定内にとどめ、早期の事業活動再開も期待される。
- また、宮崎県中小企業団体中央会のネットワークを活用して、災害と関係の深い他の組合との異業種連携を行うことにより、被災した地域全体の復旧のさらなる早期化に取り組むことができれば有用ではないかと考えている。



施設の外観

【組合概要】

組合名：介護サービスげんき企業組合

所 在：宮崎県宮崎市高岡町花見107-3

出資金：80万円

従業員数：36名

業 種：社会保険・社会福祉・介護事業

組合HP：<https://www.genki0203.com/>

活用施策

- ・宮崎県中小企業団体中央会の組合等活動新展開支援事業